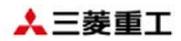




2020年度第2四半期 決算説明資料

2020年10月30日

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.



I. 2020年度第2四半期決算実績

• 決算実績サマリー	4
• 連結経営成績サマリー	5
• 定常収益	6
• セグメント別内訳	7
• 連結財政状態	8
• 主要財務指標／キャッシュ・フロー	9
• セグメント情報	10-12
(受注高・受注残高/売上収益/事業利益)	
• 事業利益増減分析	13
• 新型コロナウイルスの影響と状況	14

II. 2020年度業績見通し

• 業績見通しサマリー	16
• 定常収益	17
• セグメント別内訳	18

III. 補足資料

20-24

I . 2020年度第2四半期決算実績

- 新型コロナウイルスの影響は1Qをボトムとして軽減されつつあるものの、2Q累計の実績は前年同期と比べると低調。
- エナジーやプラント・インフラなどの受注品事業においては、新型コロナウイルスの影響が期首想定よりも大きく、事業環境変化に応じた施策を講じる。
- 一方、中量産品事業（物流・冷熱・ドライブシステム）は市況の緩やかな回復に加えて、固定費削減効果が現れ、2Q累計で黒字化を達成。期首計画を大幅に上回る。
- 原子力及び防衛・宇宙は堅調。
- 現在の事業環境や持分法適用会社株式譲渡の影響等を踏まえて通期見通しを修正（P16～18ご参照）。

決算実績の全体概況について説明します。
スライド4ページと併せ、5ページの数表もご参照ください。

受注高・売上収益・各段階利益等それぞれの項目において、前年同期を下回っており、低調な実績に見受けられますが、本年5月11日に公表した新型コロナウイルスの影響を踏まえた年間見通しに照らし合わせると、概ね想定範囲で推移していると評価しています。

新型コロナウイルスの影響については、第2四半期は第1四半期と比べて回復の兆しが見られます。この点は14ページで補足します。

事業部門ごとの状況を見ると、期首時点ではあまり大きな影響を見込んでいなかったエナジーやプラント・インフラなどの受注品事業において、商談遅れによる受注の低迷や、工事進捗の遅れ等が顕在化しています。

一方、相当の悪化を覚悟していた中量産品事業においては、第1四半期をボトムに市況の回復傾向が見られることに加え、固定費削減効果もあり、期首の想定よりも順調な進捗を示しています。

原子力や防衛・宇宙事業は、堅調に推移しています。

第2四半期決算実績 連結経営成績サマリー



(単位：億円)

	2019年度2Q累計 (利益率)		2020年度2Q累計 (利益率)		増減 (増減率)	
受注高		16,982		13,972	△ 3,009	(△17.7%)
売上収益		18,776		16,586	△ 2,190	(△11.7%)
事業利益	(4.0%)	743	(△3.5%)	△ 586	△ 1,330	(△178.9%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(1.6%)	292	(△3.4%)	△ 570	△ 863	(△295.2%)
EBITDA	(7.5%)	1,412	(0.6%)	104	△ 1,308	(△92.6%)
フリーCF		△2,113		△4,971	△2,858	-

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

5

第1四半期の事業利益、当期利益はそれぞれ△713億円、△579億円でしたが、第2四半期累計の実績は、それぞれ△586億円、△570億円であり、第2四半期単期(3ヶ月間)では黒字化しています。

第2四半期決算実績 定常収益



(単位：億円)

2020年度2Q累計	定常収益 (利益率)	SpaceJet 投資	合計 (利益率)
受注高	13,972	-	13,972
売上収益	16,586	-	16,586
事業利益	(1.4%) 236	△822	(△3.5%) △586
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(0.7%) 120	△691	(△3.4%) △570
EBITDA	(5.6%) 924	△820	(0.6%) 104
フリーCF	△4,161	△809	△4,971

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

6

5ページの2020年度第2四半期実績をSpaceJet関連のものとして、それを除いた定常収益に分解して表示しています。

SpaceJetを除く定常収益ベースでの事業利益は、第1四半期では残念ながら△24億円でしたが、第2四半期累計では、236億円の黒字に転じました。

SpaceJetについて補足すると、事業利益△822億円には、本年6月1日に買収を完了したカナダBombardier社のCRJ事業買収に伴って生じたのれんに関する減損損失が含まれています。第1四半期は△688億円でしたので、第2四半期の3ヶ月間での損失は134億円ということになります。

第2四半期決算実績 連結経営成績 セグメント別内訳



(単位：億円)

	受注高			売上収益			事業利益		
	'19年度 2Q累計	'20年度 2Q累計	対前年度 増減	'19年度 2Q累計	'20年度 2Q累計	対前年度 増減	'19年度 2Q累計	'20年度 2Q累計	対前年度 増減
エナジー	6,654	5,523	△ 1,130	7,079	6,625	△ 453	372	△ 124	△ 497
プラント・インフラ	3,673	2,534	△ 1,138	3,793	2,870	△ 923	108	△ 67	△ 175
物流・冷熱・ ドライブシステム	4,989	4,022	△ 966	4,970	3,952	△ 1,017	185	45	△ 139
航空・防衛・宇宙	1,923	2,056	+133	3,105	3,359	+253	126	△ 663	△ 789
その他	△ 258	△ 164	+93	△ 171	△ 221	△ 49	△ 49	222	+271
合計	16,982	13,972	△ 3,009	18,776	16,586	△ 2,190	743	△ 586	△ 1,330

当社は今年度からセグメントを一部変更しました。
「エナジー」は2019年度以前の「パワー」、「プラント・インフラ」及び「物流・冷熱・ドライブシステム」は「インダストリー & 社会基盤」と対応しています。

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

7

ドメイン再編に伴い、今年度から開示セグメントを一部見直しています。具体的には、従来「インダストリー & 社会基盤」と称していたセグメントを、「プラント・インフラ」と「物流・冷熱・ドライブシステム」に区分しましたが、対比を容易にするため、この新区分に合わせて前年同期の数字を示しています。

それぞれの内容については、10ページ以降で補足します。

第2四半期決算実績 連結財政状態



(単位：億円)

	'19年度末	'20年度2Q末	対前年度末 増減
売上債権 (営業債権、契約資産)	11,880	12,371	+491
棚卸資産	7,262	8,157	+895
その他流動資産 (現金及び現金同等物)	9,242 (2,816)	4,661 (2,182)	△4,580 (△634)
固定資産	9,963	9,955	△8
投資等	11,508	11,901	+392
資産合計	49,856	47,047	△2,809
営業債務	8,240	6,977	△1,263
契約負債	8,354	7,541	△813
その他	14,378	10,028	△4,349
有利子負債	5,982	10,375	+4,392
資本 (うち親会社の所有者に帰属する持分)	12,900 (12,183)	12,124 (11,436)	△776 (△746)
負債・資本合計	49,856	47,047	△2,809

借入金・社債 △168
コマーシャルペーパー +4,560

配当 △251
当期利益 △570
その他 +75

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

8

総資産は、前年度末から2,809億円減少し、4兆7,047億円となりました。
また、本資料には掲載していませんが、前年同期末の総資産は5兆1,874億円でしたので、そこからは約4,800億円減少しています。

例年、年度途中では総資産は膨らむ傾向が見られますが、今年度においては、9月に実行された三菱日立パワーシステムズの株式譲受に伴い、総資産が4,078億円圧縮された影響で、減少したものです。

有利子負債の内訳は赤枠内に示しています。フリーCFがマイナスだったこともあり、有利子負債の額は増加していますが、資金調達は特段の問題なく実施できています。

主要財務指標

	'19年度末	'20年度 2Q末	対前年度末 増減	'20年度 見通し
自己資本比率	24.4%	24.3%	△ 0.1pt	-
有利子負債残高 (単位：億円)	5,982	10,375	+ 4,392	9,500
D/Eレシオ	0.46	0.86	+0.39	0.8

キャッシュ・フロー

(単位：億円)

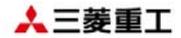
	'19年度 2Q累計	'20年度 2Q累計	増減	'20年度 見通し
営業CF	△ 911	△ 3,720	△ 2,809	-
投資CF	△ 1,201	△ 1,250	△ 48	-
フリーCF	△ 2,113	△ 4,971	△ 2,858	△ 4,000

主要財務指標はいずれも悪化傾向のように見えますが、これは当初から想定している年度内の変動の範囲に収まっています。

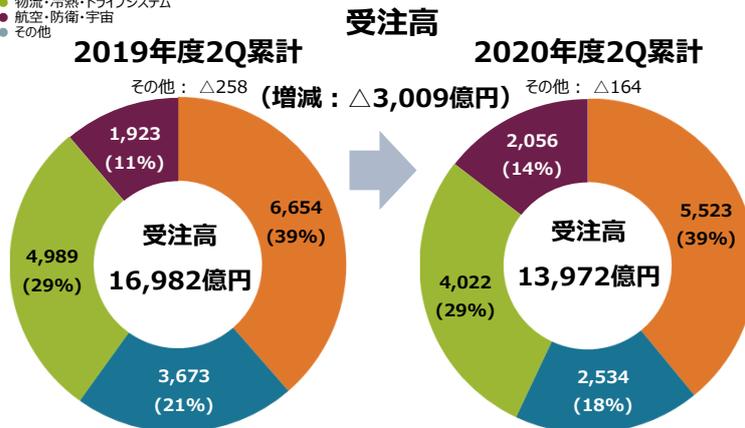
営業キャッシュフローが前年同期に比べて悪化していますが、主に利益の減少と運転資金の増加によるものです。

投資キャッシュフローは、CRJの買収資金の拠出がありましたが、SpaceJetの開発投資を抑制していることもあり全体では前年度並みです。

第2四半期決算実績 セグメント別 <受注高・受注残高>



- エナジー
- プラント・インフラ
- 物流・冷熱・ドライブシステム
- 航空・防衛・宇宙
- その他



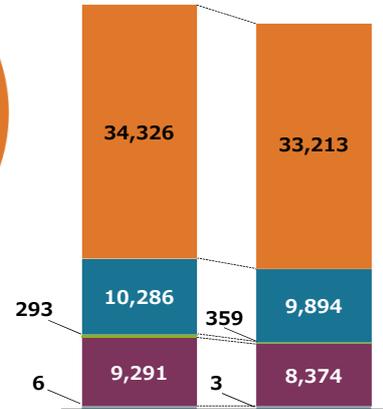
■ エナジー	増加	GTCC ^(※1) 、原子力
	減少	スチームパワー
■ プラント・インフラ	減少	製鉄機械
■ 物流・冷熱・ドライブシステム	減少	ターボチャージャ、物流機器
■ 航空・防衛・宇宙	増加	防衛航空機・飛昇体
	減少	民間航空機

受注残高^(※2)

(増減：△2,358億円)

'19年度末 '20年度2Q末

54,204億円 51,846億円



(※1) GTCC：Gas Turbine Combined Cycle
(※2)ターボチャージャ、物流機器等の量産品は含まない

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

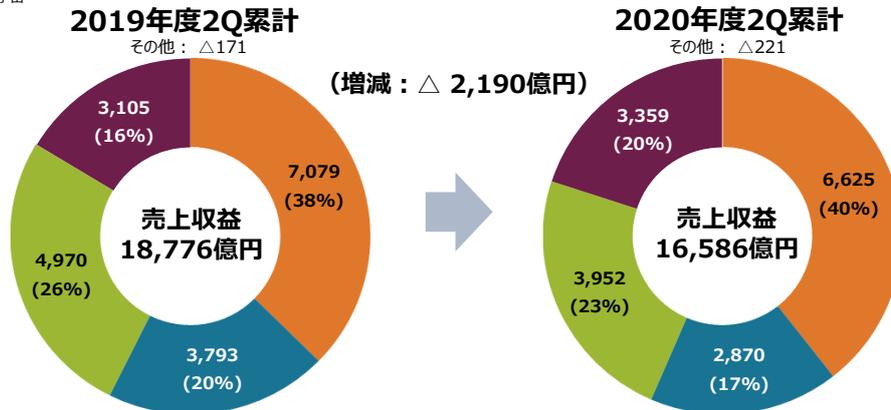
10

受注高は新型コロナウイルスの影響もあり、航空・防衛・宇宙セグメントで若干の増加になったほかは、各セグメントとも前年同期を下回る結果となっています。製品別では、GTCC、原子力、防衛航空機などが増加しています。

受注残高は、当期の売上収益が受注高を上回ったことから2019年度末に比べて減少しています。

第2四半期決算実績 セグメント別 <売上収益>

- エナジー
- プラント・インフラ
- 物流・冷熱・ドライブシステム
- 航空・防衛・宇宙



■ エナジー	増収	原子力
	減収	スチームパワー、航空エンジン
■ プラント・インフラ	減収	製鉄機械、エンジニアリング
	減収	ターボチャージャ、物流機器、カーエアコン
■ 物流・冷熱・ドライブシステム	増収	防衛航空機・飛昇体
	減収	民間航空機

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

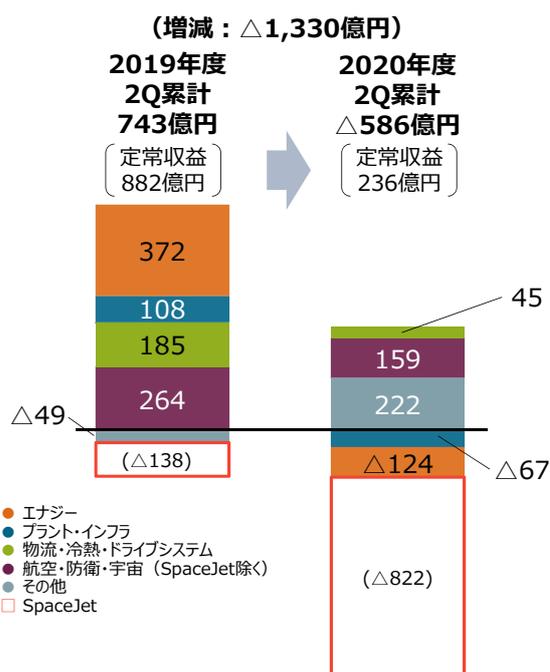
11

新型コロナウイルス感染拡大による経済環境変化の影響を大きく受けている事業、航空機関連や自動車関連、その他量産品事業を中心に減収の部門が多くなっています。

物流・冷熱・ドライブシステムセグメントについては、第1四半期の売上収益が1,829億円だったことを踏まえると、第2四半期では回復しつつあることが窺えます。一方、製鉄機械やエンジニアリングといった受注品部門においては、工事の進捗が止まるなどの影響が表出し減収となりました。

一方、国内のインフラを中心とする原子力や防衛関連は堅調に推移しています。

第2四半期決算実績 セグメント別 <事業利益>



■ エナジー

	事業	要因
増益	原子力	売上増加 他
減益	スチームパワー	売上減少、一部工事採算悪化 他
	航空エンジン	売上減少 他

■ プラント・インフラ

減益	エンジニアリング	売上減少 他
----	----------	--------

■ 物流・冷熱・ドライブシステム

減益	ターボチャージャ	売上減少 他
	物流機器	
	カーエアコン	

■ 航空・防衛・宇宙

増益	防衛・宇宙	売上増加 他
減益	民間航空機	売上減少 他
	SpaceJet	CRJのれん減損 他

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

12

残念ながら、共通を除く全ての公表セグメントで前年同期比減益という結果となりました。

中でもエネルギーセグメントの減益幅が大きくなっています。これは、新型コロナウイルスの影響により、航空エンジン事業で売上収益が大きく減少したことに加え、火力事業におけるサービス工事の上期から下期への繰り下がりや工事の進捗停滞、並びに一部工事において採算悪化が生じたことなどが理由です。

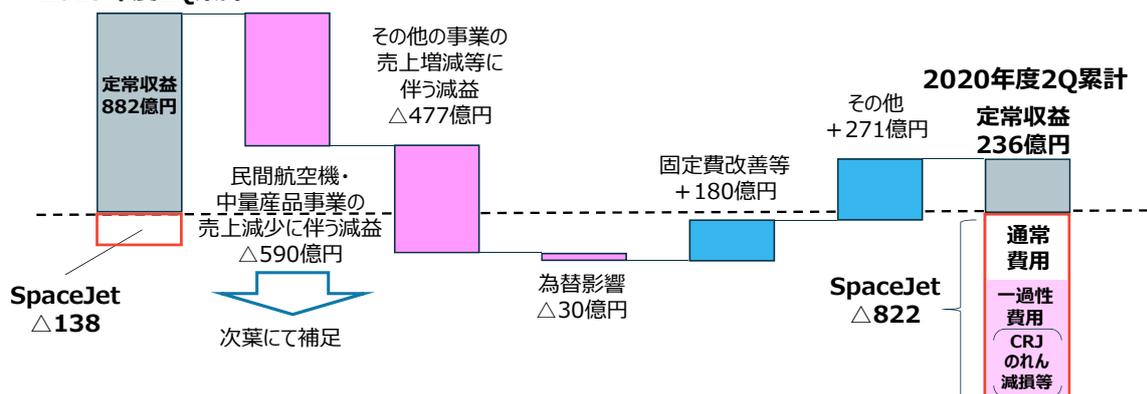
一方、中量産品事業は回復傾向を強く示しており、物流・冷熱・ドライブシステムセグメントでは、第1四半期の26億円の赤字から第2四半期累計で45億円の黒字に転じました。

なお、スライド19以降の「補足資料」の中で、各セグメントの現下の概況と年間見通しへの反映等についても記載していますので、併せてご確認ください。

第2四半期決算実績 事業利益増減分析

- 民間航空機事業（構造Tier1、航空エンジン）、中量産品事業における新型コロナウイルスの影響は、1Qをボトムとして軽減されつつある。中量産品事業は、固定費削減等の緊急対策により、2Qで黒字化
- エナジーやプラント・インフラにおける受注品事業は、新型コロナウイルスの影響が期首想定以上に大きく、一部工事の採算悪化等もあり減益
- 固定費削減やアセットマネジメントなどの改善活動は、期首計画を上回るペースで順調に進捗
- SpaceJet関連は、通常の開発費が△300億円(通期見通し△600億円)、CRJ事業買収に伴うのれん減損等の一過性要因が△500億円(通期見通し△600億円)

2019年度2Q累計



© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

13

本スライドでは、前年同期対比での事業利益の増減要因について説明しています。2019年度第2四半期累計の事業利益はスペースジェットを除く定常収益ベースで882億円、今年度第2四半期累計の定常収益は236億円であり、その差を示しています。

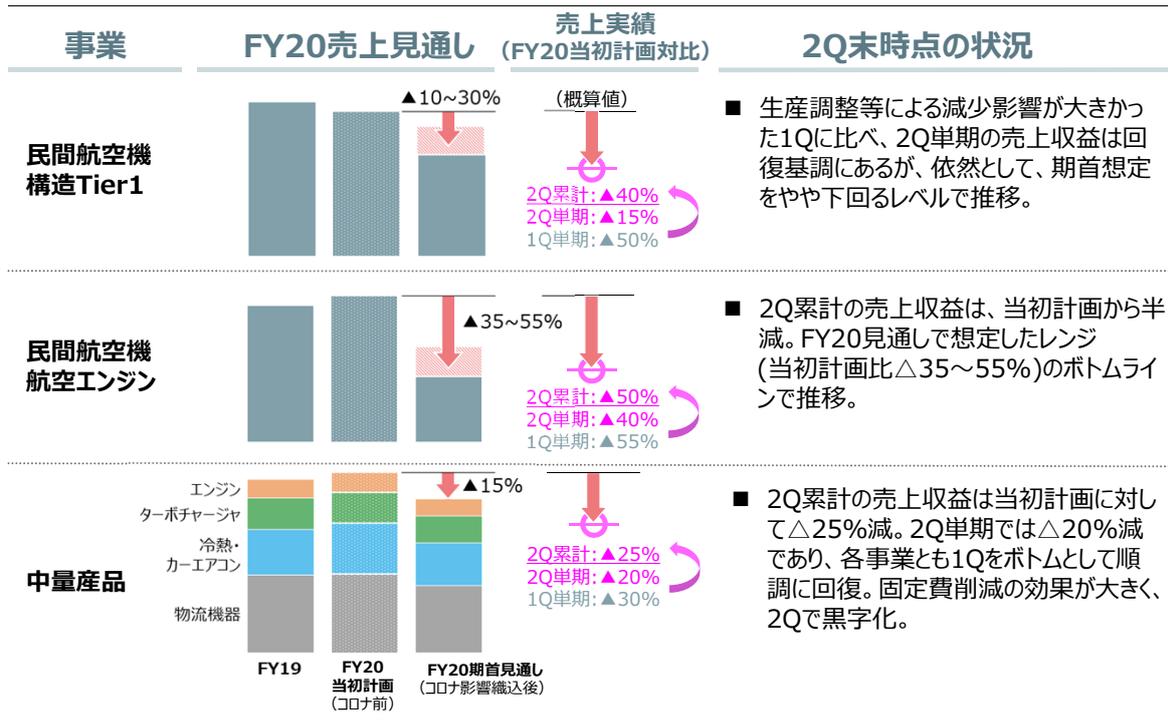
ピンク色の左端△590億円は、民間航空機や中量産品事業における主として新型コロナウイルス影響による売上減少に伴う減益を示しています。これは年度見通し公表時に示した新型コロナウイルスによる減益影響1,400億円に概ね対応するものです。四半期ベースでの新型コロナウイルスの影響は第1四半期が最も大きいと想定していましたが、第2四半期では着実に回復しており、通期との対比では想定範囲内で推移しています。詳細については次ページで補足します。

その右側の△477億円は、今述べた事業以外の事業における売上増減等による減益です。これには、新型コロナウイルスの影響による海外プラント工事の一時停止等による遅れの影響や、一部工事での採算悪化の影響も含まれています。

為替影響は、前年同期に比べて平均計上レートが1ドル当り2円強円高に振れた(109.3円から107.1円)ことなどによる利益減少です。

固定費削減等のコスト改善は+180億円、その他アセットマネジメントなどが+271億円となっています。期首時点ではこの2項目で+450億円の改善効果を見込んでいましたので、その大部分を既実現したイメージです。

新型コロナウイルスの影響と状況



© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

14

このスライドは、去る5月11日に今年度の見通しを説明した際の新型コロナウイルス影響の想定に、第2四半期時点での状況を追記したものです。

民間航空機のTier1(Boeing向けを中心とした機体の供給事業)の売上収益は、上期は新型コロナウイルスの影響を織り込んでいない当初計画の約4割減となりました。第1四半期は約半減でしたが、第2四半期単期では同15%減へと回復しています。通期では、期首に想定した範囲のボトムか、それを少し下回る水準になると見込んでいます。

航空エンジンについては、第1四半期は当初想定したボトムラインで進捗しましたが、第2四半期で若干持ち直しつつあるように感じられます。通期でも当初想定範囲内(ボトムに近い)に収まるものとみています。

中量産品については、第1四半期から第2四半期へと想定どおりの回復が見られています。今後の新型コロナウイルス感染の状況にもよりますが、通期では当初想定より改善することも期待しています。

第2四半期の実績を総括すると、繰り返しになりますが、CRJ買収に伴って生じたのれんの減損損失の計上や、新型コロナウイルスの影響による減収等により、前年同期比で大幅な減収減益となりました。ただし、その損失の程度は通期見通しの範囲内でコントロール出来ており、全体としては計画に沿って推移しているととらえています。

Ⅱ. 2020年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2020年度業績見通し サマリー



期首公表値 (2020年5月11日) から一部見直し

(単位: 億円)

	2019年度実績		2020年度見通し		対前年度増減 (増減率)
	(利益率)		(利益率)	期首公表値	
受注高	41,686		35,000	35,000	△ 6,686 (△16.0%)
売上収益	40,413		37,000	38,000	△ 3,413 (△8.4%)
事業利益	(△0.7%)	△295	(1.4%) 500	0	+795 -
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(2.2%)	871	(0.5%) 200	0	△ 671 (△77.0%)
R O E	6.6%		2%	-	-
EBITDA	(2.8%)	1,151	(5.1%) 1,900	1,400	+749 (+65.1%)
フリーCF	2,129		△4,000	△4,000	△6,129 -
配当(1株あたり)	150円 (中間75円/期末75円)		75円 (中間0円/期末75円)	75円 (中間0円/期末75円)	【未確定外貨】【前提為替レート】 15億ドル 1ドル = 110円 2億ユーロ 1ユーロ = 120円

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

16

今年度の業績見通し等につき説明します。

昨日(10月29日)年間見通しの修正を公表しましたが、これに対応する各数値を記載しています。

事業利益については、昨日同時に公表したVestas社との再生可能エネルギー分野における協業体制の再構築に伴うMVOW(MHI Vestas Offshore Wind A/S)株式の売却益相当分(500億円)の上方修正をしています。併せて各セグメントの現時点での進捗を踏まえた見通し値の見直しも行っています。

2020年度業績見通し 定常収益



期首公表値 (2020年5月11日) から一部見直し

(単位: 億円)

2020年度見通し	定常収益		SpaceJet 投資	合計	
	(利益率)	今回見直し		期首公表値	(利益率)
受注高		35,000	35,000	-	35,000
売上収益		37,000	38,000	-	37,000
事業利益	(4.6%)	1,700	1,200	△1,200	(1.3%) 500
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(3.0%)	1,100	900	△900	(0.5%) 200
ROE		10%	-	-	2%
EBITDA	(8.4%)	3,100	2,600	△1,200	(5.1%) 1,900
フリーCF		△2,800	△2,800	△1,200	△4,000

2020年度業績見通し セグメント別内訳



期首公表値 (2020年5月11日) から一部見直し

(単位: 億円)

	受注高				売上収益				事業利益			
	'19年度 実績	'20年度見通し		対前年度 増減	'19年度 実績	'20年度見通し		対前年度 増減	'19年度 実績	'20年度見通し		対前年度 増減
		今回 見直し	期首 公表値			今回 見直し	期首 公表値			今回 見直し	期首 公表値	
エネルギー	17,721	14,500	14,500	△ 3,221	15,902	15,500	15,500	△ 402	1,443	1,300	1,000	△ 143
プラント・インフラ	7,399	6,500	6,500	△ 899	7,929	6,500	7,500	△ 1,429	255	50	300	△ 205
物流・冷熱・ ドライブシステム	9,859	8,500	8,500	△ 1,359	9,901	8,500	8,500	△ 1,401	293	100	△ 300	△ 193
航空・防衛・宇宙	7,192	6,000	6,000	△ 1,192	7,049	7,000	7,000	△ 49	△ 2,087	△ 950	△ 900	+1,137
その他	△ 485	△ 500	△ 500	△ 14	△ 369	△ 500	△ 500	△ 130	△ 200	0	△ 100	+200
合計	41,686	35,000	35,000	△ 6,686	40,413	37,000	38,000	△ 3,413	△ 295	500	0	+795

当社は今年度からセグメントを一部変更しました。
「エネルギー」は2019年度以前の「パワー」、「プラント・インフラ」及び「物流・冷熱・ドライブシステム」は「インダストリー & 社会基盤」と対応しています。

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

18

セグメント毎の受注高・売上収益・事業利益の見通しを記載しています。

エネルギーは、受注高・売上収益に変更はありません。事業利益は、MVOW株式の売却益を織り込む一方、火力事業等での工事採算悪化リスクなども踏まえ、従前見通しを300億円上方修正し1,300億円としました。

プラント・インフラは、新型コロナウイルス影響による工事進捗の遅れなどにより、売上収益を1,000億円、事業利益を250億円、それぞれ下方修正しました。

物流・冷熱・ドライブシステムは、上期の進捗を踏まえ、事業利益を従前見通しから400億円上方修正し、100億円としています。

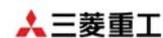
航空・防衛・宇宙については、航空機構造体Tier1の現状を踏まえ、事業利益見通しを50億円下方修正し△950億円としています。これにはSpaceJet関連の損失を含んでいます。また、SpaceJet関連の損失見通しに変更はありません。

新型コロナウイルスの収束は未だ見通せませんが、今回示した通期見通しを達成すべく進めていきたいと考えています。

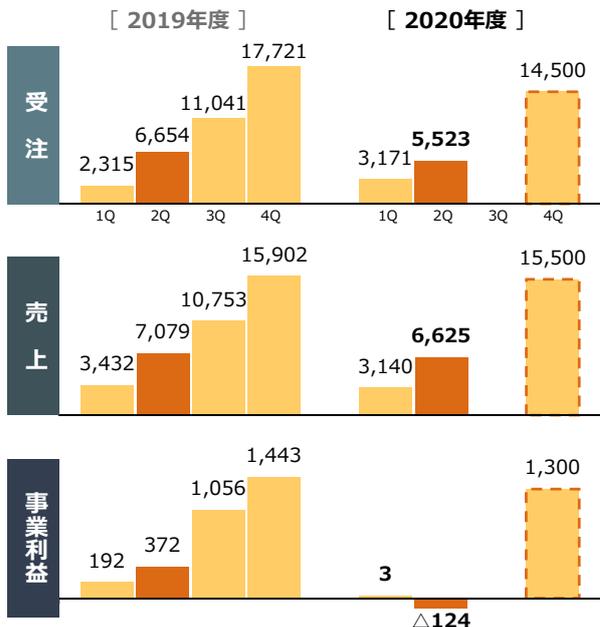
以上で2020年度第2四半期決算の説明を終わります。

Ⅲ. 補足資料

補足資料 第2四半期決算実績〈エナジー〉



(億円・各期の数値は累計)



- 航空エンジンの2Qの売上収益は、前年同期比約半減であるが、概ねFY20見通しの範囲内で推移
- 新型コロナウイルスの影響で当初上期に予定していた火力事業のアフターサービス工事が一部下期に後ろ倒しになったことや、一部プロジェクトにおける損益悪化などにより、前年同期比減収・減益
- Vestas社との合併会社の株式譲渡に伴う増益を見込み、事業利益の通期見通しを1,300億円（+300億円）に上方修正

【ガスタービン受注台数・契約残台数】

2020年度2Q累計：5台

	米州	アジア	EMEA	その他	合計	契約残台数
大型	-	2	3	-	5	45
中小型	-	-	-	-	0	13
合計	0	2	3	0	5	58

2019年度累計：32台

	米州	アジア	EMEA	その他	合計	契約残台数
大型	7	10	2	2	21	49
中小型	3	2	6	-	11	15
合計	10	12	8	2	32	64

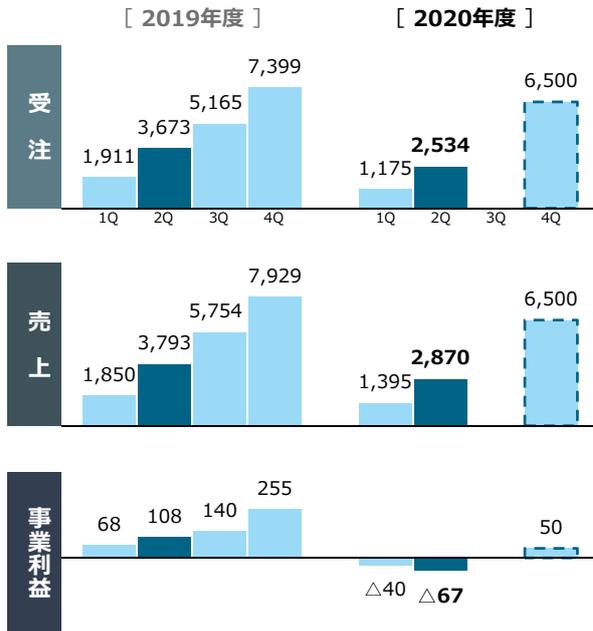
2019年度2Q累計：9台

	米州	アジア	EMEA	その他	合計	契約残台数
大型	3	1	2	-	6	37
中小型	3	-	-	-	3	11
合計	6	1	2	0	9	48

補足資料 第2四半期決算実績〈プラント・インフラ〉

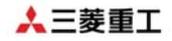


(億円・各期の数値は累計)

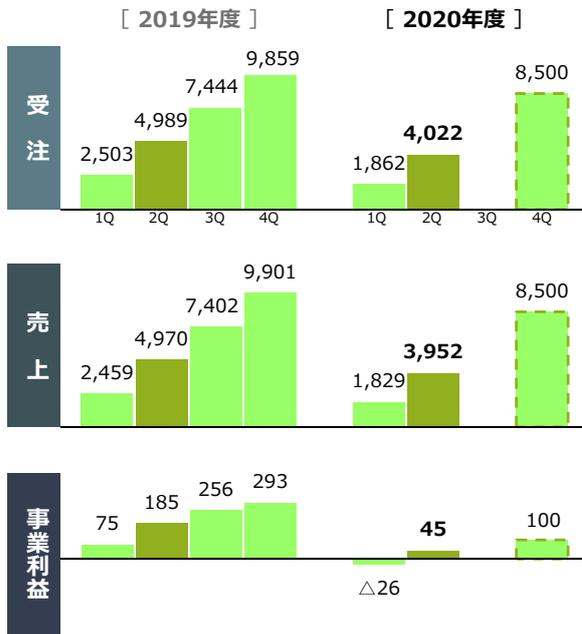


- 期首時点では、新型コロナウイルス影響は軽微と想定していたが、商談の停滞に伴い受注は前年同期比減少。また、エンジニアリングや製鉄機械において、工事の進捗遅れが発生したこと等により前年同期比減収
- 加えて、引渡し済みの海外エンジニアリング案件の費用精算等による一過性費用も発生し、事業利益の通期見通しを50億円(△250億円)に下方修正

補足資料 第2四半期決算実績〈物流・冷熱・ドライブシステム〉



(億円・各期の数値は累計)

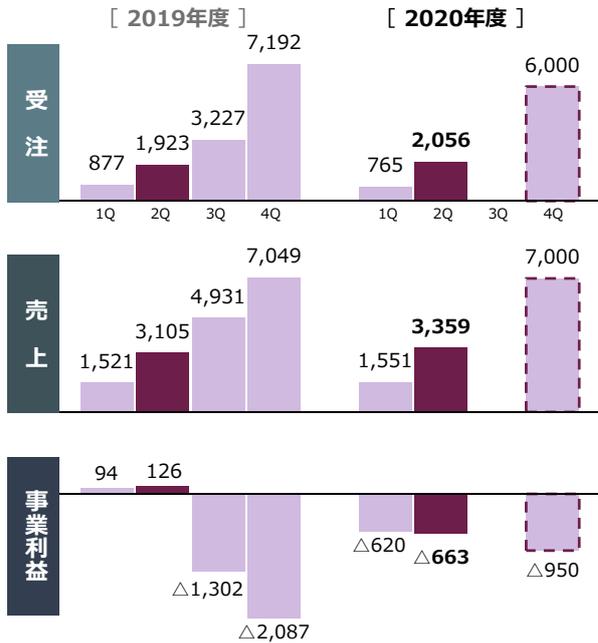


- 新型コロナウイルスの影響により、1Qの売上収益は前年同期比△25%であったが、2Q単期では△15%に縮小し、回復基調
- 固定費圧縮効果等により、2Qで既に黒字化を達成しており、事業利益の通期見通しを100億円(+400億円)に上方修正

補足資料 第2四半期決算実績〈航空・防衛・宇宙〉



(億円・各期の数値は累計)



- 民間航空機構造Tier1の売上収益は、1Qをボトムとして改善基調にあるものの、期首想定よりやや低いレベルで推移。引き続き操業調整や固定費削減を推進
- 一方、航空・防衛・宇宙全体としては、堅調な防衛・宇宙及び1Qに買収が完了したCRJが寄与し、前年同期比増収
- SpaceJet事業の損失（CRJ事業買収に伴って生じたのれんの減損を含む）は822億円で期首想定通り

【B777/B777X 引渡機数】

	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
2019年度	16	14	13	11	54
2020年度	6	13	-	-	-

【B787 引渡機数】

	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
2019年度	43	42	38	43	166
2020年度	18	32	-	-	-

1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位：億円)

	'19年度 2Q累計	'20年度 2Q累計	'20年度 見通し
研究開発費	555	595	1,400
減価償却費	668	690	1,400
設備投資	697	578	1,500

2. 販売費及び一般管理費

(単位：億円)

	'19年度 2Q累計	'20年度 2Q累計
販管費	2,711	2,575

3. 為替レート (売上計上平均レート)

	'19年度 2Q累計	'20年度 2Q累計
USドル (円/USドル)	109.3	107.1
ユーロ (円/ユーロ)	122.1	121.1

4. 海外地域別売上収益

(単位：億円)

	'19年度2Q累計	'20年度2Q累計
アジア	3,453 (18%)	2,651 (16%)
北米	3,537 (19%)	2,836 (17%)
欧州	1,750 (9%)	1,421 (9%)
中南米	685 (4%)	309 (2%)
中東	457 (2%)	186 (1%)
オセアニア	90 (1%)	91 (1%)
アフリカ	343 (2%)	233 (1%)
合計	10,318 (55%)	7,730 (47%)

MOVE THE WORLD FORWARD

**MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP**

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.